

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1170500324
法人名	有限会社寿老会
事業所名	グループホームひだまりの家宮代
所在地	345-0831 埼玉県南埼玉郡宮代町大字須賀1295 (電 話) 0480-36-1165
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(19年12月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 13人, 非常勤 12人, 常勤換算	16.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円		その他の経費(月額)	27,000円+実費	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)		有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(12月27日現在)

利用者人数	24 名	男性	8 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 75 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	春日部中央総合病院、大宮デンタルクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園に囲まれた自然豊かな場所に立地している。平屋の3ユニットは行き来自由になっており、広く開放感のあるホーム内を入居者は思い思いの場所で過ごしている。「つつがない日々の暮らし」を基本理念に、職員は利用者の現在もてる能力や体力を維持していけるようケアにあたっている。また、今年度から近くに畑を借りて野菜づくりを始めたり、近隣のお寺への花見の企画など、生活の中に楽しみを持てるような工夫も試みる予定である。住み慣れた場所で最後を迎える事は当たり前前の事と考え、ターミナルケアについても前向きに検討している。そのために、医療面でのバックアップや職員の知識やケアのレベルアップなど体制を整えて取り組んでいく方針である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 利用者個々の生活歴、心身の状況、家族や本人の希望などをアセスメントした具体的な介護計画の作成、状態変化に応じたケアプランの見直し、食欲を高め暮らしを豊かにするような試みについて、昨年より1年かけて取り組んだ。その結果、個々のケアプランについてより個別的に、またケアの内容も具体的なものになっている。また、職員にも個別的なプランの重要性についての理解が浸透しつつある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 個別的なケアプランを作成し、本人の出来る事や希望を引き出して、日々のケアに活かす仕組みが出来ている。個々のプランは、話し合いの場に利用者本人も立会い本人の意向を把握している。金銭管理については、欲しいものがあれば一緒に行って個別的に買い物をする機会を持つようにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 前年度より2回会議を開催している。地域への呼びかけで区長、役場職員、地域包括支援センター、近隣にある寺の住職、家族に出席してもらっている。会議の意義や役割、必要性を理解してもらうためにも、今現在はグループホームの説明などから始めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 改善課題はなし。ホームだよりのほかに、心身の状況をお知らせするミニ便りを毎月郵送している。また、緊急を要することは電話連絡している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議をきっかけに近所の寺とのお付き合いが出来た。すでに小学校の下校時パトロールのボランティアのメンバーになっている。今年度より町内会への参加、地域に向けた勉強会の開催、ホームの和室を地域へ開放する試みなどを企画しており、地域との関係が密になっていくことが期待できる。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に開かれた施設作りを目指し、職員全体で理念を作り上げた。今年度は施設を地域に開放したり、勉強会を主催するなど理念の具体化が計画されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「つつがない日々の暮らし」を基本理念として、日々のケアにあたっている。住み慣れた場所で最期を迎える事は当たり前の事と考え、ターミナルケアについても前向きに検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度より町会へ加入したり、小学校の登下校の防犯ボランティアとして参加している。ホームの存在はまだまだ知られていないため、ホームの和室を地域の方へ開放できるよう考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価に、食欲を高め暮らしを豊かにするための工夫、金銭管理のできる仕組み、個別的ケアプランの見直しなどがあげられた。各々については、個別的なケアプランの中で、各自の能力や希望の引き出しができ、日々のケアに活かされている。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度より2回会議を開催している。地域への呼びかけで区長、役場職員、地域包括支援センター、近隣にある寺の住職、家族に出席してもらっている。今現在はグループホームの説明などに終始している。	○	外部評価の結果を受けて取り組みや改善経過についてのモニター役となってもらい、グループホームを地域に開かれたサービスとして位置づけていけるような努力が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、役場、地域包括支援センターの参加があり、ホームについての理解が得られつつある。役場主催の「認知症の人の家族会」へのアドバイザー派遣の依頼で職員が出席している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりは3ヵ月に一度、個々の利用者の様子については毎月請求書とともに郵送している。緊急時や必要時は電話連絡もまめに取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	持ち込みの消耗品については、日時を記入したうえホームで管理するようにして、他人のものと取り違えなどのトラブルを避けるようにしている。疑問などあればそのつど解決するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	まず離職が減るような職場づくりに努め、離職率が激減している。3ユニットが平屋の同じフロアにあるため職員の行き来やかかわりも流動的である。そのためか、離職の際は利用者にきちんと説明しているが利用者のダメージは見られていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修参加の際は参加費、交通費を支給している。また新人研修の取り組みをしている。ただ、ホーム内の年間研修計画は策定されていない。	○	職員全体のレベルアップが出来るような研修計画を予定し、自信をもってケアにあたれるよう努力されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議への参加の機会をもちサービスの質の向上に努めている。また、同業者からの見学を受け入れ交流を深めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用時は特に不穏になりがちのため、徐々に馴染んでいくまでは特に、入居者の言動を絶対否定しないように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側という関係でなく接するよう心がけており、お互いにお互いしあったりしている。利用者から教えてもらうことも多く人生の先輩として接している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスには本人にも参加してもらい、意見を聞いている。また日々のかかわりの中で言葉や表情の中からも把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「利用者が、その人らしく暮らせる」とはどういうことなのか考えた上でケアプランを作成している。また、本人の生活歴や経歴、希望を考慮して本人に役割を持ってもらえるよう、ケアの内容は具体的にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は定期的に、また必要時見直しがされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には家族が受診には付き添うようになっているが、急を要する場合や、状態についての情報交換が必要な場合において、受診の付き添いを提供している。また、定期的に訪問理容に来てもらっている。今後、理美容院へ出向き利用ができるように検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が月に1回訪問し体調の管理をしている。また、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	住み慣れた場所で最期を迎える事はあたりまえの事と考え、職員全体でターミナルケアへの取り組みを前向きに検討している、医療面のサポートや職員全体のスキルアップ、職員体制の整備など具体的な方策を検討していく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類は鍵のかかる場所で管理している。個人情報が入って漏れることのないように、メモ代わりに裏紙を利用したりする事も決してしないようにあらゆる面に注意を払っている。トイレ誘導の声かけにも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩などは、個々の希望に応じて柔軟に対応している。また自分のペースで過ごせるよう、決して押し付けのケアにならないようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当会社の他事業である施設で調理されたものを運んでいるが、季節の野菜など1品は、必ずホーム内で利用者が手作りをしている。また週に1回のおやつ作りと月に1回の食事作りは利用者が中心となって行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は週に2～3回は入れるように利用者に声かけしている。基本的に個浴とし、毎週1回は一般浴となっている。また、ADLが低下しても入浴できるように器械風呂も設置されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の利用者の生活歴や経歴、本人の意向を考慮して、ホーム内の見回り、洗濯たたみ、畑作り、庭の草取り、水遣やりなどをお願いしている。また開放的な庭を利用してのバーベキューや、近所へのお花見など生活の中に楽しみを見つける工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物には個別的に対応をしている。買い物には巡回バスを利用することもある。近くの寺、学校、病院、役所に、利用者と一緒に行く機会多く持っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていない。開放的なホームの庭、ベランダには自由に出入りする事が出来る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所に同じ母体の施設があるため協力関係は出来ている。防災訓練は定期的に行っている。抜き打ちの訓練も1回行って、日ごろから危機管理ができるように心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は必要量が摂れるように好みの飲み物を準備している。常にポットに飲み物が入っていて自由に飲めるようになっている。食事は管理栄養士が献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やキッチンからトイレが見えないようになっている。ホーム全体は開放的で、ソファやコタツなどを置いて、くつろげる空間づくりがされている。ただ、畳コーナーとリビングを仕切る軽い段差と、外につながるベランダの段差は転倒事故の危険が予測される。	○	畳コーナーの段差については、利用頻度の多いところでもあるため手すりやそれに変わるものなどの利用により転倒防止の工夫が必要と思われる。また、職員の目の届かない場所においても再度検討をされたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、テレビ、写真の持ち込みは自由に出来る。窓を開けると、物干しが各部屋に設置しており、各々の布団や洗濯物が干せるようになっている。		